

国際金融センターとしての香港の地位は揺るがず

香港貿易発展局 東京事務所長 伊東 正裕

香港証券取引所（Hong Kong Stock Exchange）は、2018年に続き、2019年もIPO（新規株式公開）数と資金調達額で世界トップの座を守りました。これに大きく貢献したのが、昨年9月のバドワイザー（百威）、11月のアリババグループ（阿里巴巴集団）の大型上場です。

バドワイザーは、ビール世界最大手のアンハイザー・ブッシュ・インベプのアジア子会社で、中国市場でもビール販売額はトップ（2018年）、その他、韓国・インド・ベトナム・日本やニュージーランドでも事業を展開しています。昨年9月の上場による資金調達額はUS\$48億（約5000億円）にのびりました。

アリババグループは、C2Cのタオバオ（淘宝网）、B2CのTモール（天猫）などを擁する世界最大の電子商取引サイト運営会社で、1億人以上のユーザーを有する世界最大の小売業者としても知られています。2014年9月にはニューヨーク市場へ上場、昨年11月に香港市場にも新規上場を果たしました。公募価格を1株HK\$176として5億株の新規株式を公開、合計HK\$875億（約1兆2000億円）を調達しましたが、これは2019年を通じて世界第2位のIPO案件となりました。これにより、香港市場に先行して上場しているネットサービス大手の Tencent（騰訊）とあわせ、中国のIT

大手2社が香港で直接競争する構図となります。

2019年の香港株式市場のIPOは、香港での抗議デモの影響を受けて、夏までは全般的に低調でしたが、これらの新株に対する強い需要は、投資家が香港情勢について、それほど悲観的にはなっていない証左といえるでしょう。香港は、中国と世界各地との間の資金の流入を結ぶ玄関口であり、中国本土の投資家が巨額の資金を株式市場に投じています。一方、米中貿易摩擦長期化の影響もあり、中国本土企業は香港をこれまで以上に重要な資金調達センターと位置づけています。投資側と資金調達側双方の観点から考えて、国際金融センターとしての香港の地位は、当面揺るがないものと思われます。



昨年の香港フォーラムのオプションツアーで香港証券取引所を訪れた各国からのフェデレーションメンバーの面々

2020年5月発行（禁無断転載）

目次

国際金融センターとしての香港の地位は揺るがず	1
会長就任のご挨拶 “香港への感謝をこめて”	2
アジアユースオーケストラ創立30周年記念を迎えて	3
CMMS「華人経営研究」講座について	4
時代を先取りした軽鐵に見る、欧州の面影	5
学生交流支援プログラム「スタディツアー」&大学エグゼクティブセミナー	6
香港政府と香港貿易発展局が春節レセプション開催	7
連合会・各協会便り	
東京：爽快豪快マリンイベント 横濱ドラゴンボートレース パウヒニア会 新担当で活動を活性化	8
関西：2020年度総会とチャイニーズ・ニュー・イヤーズ・パーティー 今尚元気、スーパーシティ香港の将来性	9

中京：令和元年度総会及び春節パーティ 香港から愛知への訪問客	10
九州：2020年春節セミナー&パーティー 香港ロータリー協会とのお茶会を開催	11
山形：2019年12月香港訪問レポート	12
北海道：総会開催 香港ビジネスセミナー2020開催	13
宮城：2020年春節セミナー&パーティー開催 広東語教室で恒例の春節パーティーを開催	14
沖縄：春節・香港ビジネスセミナー2020 in 沖縄 開催 香港へ臨時海上輸送を提供 ～航空国際線全便運休を受けて～	15
広島：香港広島県人会について	16
新潟：2020年春節セミナー&パーティーを開催	17
高知：春節セミナーから更なるグローバルな世界を、高知へ！	18

会長就任のご挨拶 “香港への感謝をこめて”

日本香港協会全国連合会会長 NPO 法人日本香港協会会長 佐藤 征洋



2020年3月にNPO法人日本香港協会の会長を拝命し、あわせて日本香港協会全国連合会会長に就任致しました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

任意団体日本香港協会が1988年に設立されその後2003年にNPO法人に変わり、更に各地に日本香港協会

が設立され、今や全国で11協会、会員数は1,100名を超えております。東京、各地協会の歴代の会長、理事長ほか関係者、常に支援頂いている香港貿易発展局のこれまでのご貢献とご努力に対し心から謝意を表させていただきます。

現下の世界情勢は文字通り“激変”と“苦境”に表される様な状況となっております。香港では昨年半ばからの激しいデモが繰り返されて社会情勢が不安定になっていたところ、本年に入り新型コロナウイルスの世界的な流行が全世界を震撼させる状態になりました。このような困難な環境下で会長に就任することは強く身の引き締まる思いであります。

世界各国がこの暗いトンネルのような難局からいつ抜け出せるか見通しが見えない状況ではありますが、朝の来ない夜はありません。いずれ正常化することを見据え、会員の皆様方や支援を頂いている会社、団体のご協力の下に一步一步日本・香港間の友好、ビジネスの発展に貢献できるよう全力を尽くしたい所存です。各協会の連携を強め、全国連合会としては共通の目的の追求や問題解決に今まで以上に貢献できれば幸いと考えております。

東京のNPO法人日本香港協会の関連で少々具体的な点に触れますと、従来当協会は文化交流、ビジネス交流、広報の三委員会で運営されてきました。最近文化交流が多岐の分野に広がり、実績も多く上がってきた事から今期から学術・スポーツ交流を担当する新しい委員会を加えて四委員会で運営することにしました。

学生や大学の交流はいずれ日本・香港間の経済、ビジネスにも好影響をもたらすことになるはずですが、また、広報委員会は従来から各地の協会間の連携の証の一つとして『飛龍』を発刊しておりますが、益々その重要性は増しますので更に内容の充実を図り各地協会との連携を深めたいと考えております。ビジネス交流は、香港貿易発展局の協力を得ながら香港に進出を考える中小企業や個人に情報交換や充実したサービスを提供して参りましたが、今後更に連携を深め全国連合会としての取り組みも増やす事が一つの課題となります。

毎年恒例の香港貿易発展局主催の香港フォーラムには、

世界各地からの参加団体の中で当連合会は最多を誇っており、これを堅持しながら連合会として各地協会と実質的なビジネス結果をもたらせるよう更に模索を続けたいと考えます。

個人的に私と香港との絆は1970年9月30日に会社の派遣で香港大学に留学するため啓徳空港に降り立った時に始まります。既に半世紀前の事、英国の植民地統治下で斜陽の大英帝国を香港が大きく支えている時でした。この頃香港では、香港人、大陸からの資本家、移住者、違法移民達が混然一体となり、右肩上がりの経済の中で先ずはお金儲けとビジネスに励み、学生達は将来を見据えて勉学に没頭していました。その後すぐ香港はアジアの四小龍の一つに発展しました。

その後、長いブランクの後1997年から再び香港駐在となり、先ず目にしたのは自立して逞しく発展した面目新たな輝く香港でした。世界に冠たる近代的な金融都市香港と“古き良き香港”とのギャップに驚き、感嘆したものです。

2007年には香港で三度目となるチャレンジの機会が訪れました。それは、香港に本社を置き中国の工場を管理する会社の経営です。香港のビジネス機能、金融、物流、会計、厳格な法制度等を全て使うもので、香港政府のキャッチフレーズの通りその恩恵に預かる事が出来ました。このチャレンジは2015年に完了し、この務めで人生の内20年を香港でお世話になった事になります。

今日、香港と日本の絆は益々深まっています。2019年には人口760万人の香港から230万人が日本を訪れ、逆に多くの日本人が香港を訪問しました。輸出地域として香港は世界で常に上位に位置し、食品・農林水産物の輸出に限れば世界で第1位です。文化でも経済でも非常に重要なパートナーです。

20年間の滞在経験で、最も感じることは香港の繁栄、成功には香港人と社会の独特の現実主義、柔軟性と物事のスピードが非常に重要な要素であるという事です。日本は香港人と香港の文化、ビジネス方式から学ぶことが多々あり、また香港進出の機会が沢山あります。

今世界は苦境から抜け出さるべく苦闘しており、日本と香港も回復します。そして香港と日本との関係も変わっていくでしょう。その様な中、日本と香港の懸け橋である日本香港協会の活動に微力を尽くさせて頂きたく、ご支援ご鞭撻の程、心よりお願い申し上げます。



アジアユースオーケストラ創立30周年記念を迎えて

アジアユースオーケストラ日本事務局長 加納 國雄

まずはアジアユースオーケストラ（AYO）を長年の間、ご支援・ご協力をして下さった多くの方々に心からお礼と多謝を申し上げます。日本香港協会に於かれましては毎年、沢山のチケットを購入して頂き、ご協力を頂いております。

既にご存知かと思いますが、日本、韓国、中国、台湾、香港などのアジアに長年住み、記者・音楽教育者・指揮者などの経験を持つ、リチャード・パンチャス氏（現アジアユースオーケストラ芸術監督・指揮者）は1987年にアジアの優秀な若い才能を開花させ、アジアの地域を結びつけるオーケストラが必要であると考えようになり、偉大なるヴァイオリン奏者・人道主義者である故ユーディ・メニューイン氏にAYO結成の相談をしました。その結果、1990年にAYOは日本の熊本で故メニューインの指揮で第一回アジアユースオーケストラ公演を実施し、以来今年で記念すべき30周年を迎えようとしております。

昨年、そのAYO発祥の地、熊本で20年ぶりに公演をしました。当時熊本でホームステイをして下さった沢山の家族の皆様はじめ多くの聴衆で熊本県立劇場はあふれんばかりとなり、“くまモン”登場も若い音楽家たち105名を大いに鼓舞激励しました。公演最後の曲、交響組曲「シェヘラザード」も高山流水、皆さん聴きいってました。公演前には香港特别行政区政府駐東京経済貿易代表部の首席代表シェリー・ヨン氏が県知事や県の高官をはじめ当時公演開催をサポートして下さいった音楽家故猪本乙矢氏の夫人、熊本ユースシンフォニーオーケストラ理事長猪本耀子氏、ホームステイ家族の皆様方等、多くのお客様をご招待してレセプションを開いてくださり再会は観天喜地となりました。



AYOについてお話する際、忘れてはならない人がいます。その方は元日本ビルサービス株式会社代表取締役社長、現東京商工会議所顧問の浅地正一氏です。1995年AYOが「国連50周年」を祝福して行ったグローバルツアーのプログラムの中で彼は「……そうした技術的な完成度に対する驚きとは別に、又、素晴らしい感動があります。文化・歴史的背景を異にするアジア各国の青年達が、素晴らしいハーモニーを創造している、その姿そのものが心を打つのだと思います。AYOメンバーは、それぞれの戦後50年から逃れることが出来ません。広島や国連で演奏する時などは特に、AYOメンバーは互いの歴史の違いに直面することになり、また、それを乗り越えることと思います。……アジアの多くの人々から、世代を越えて共通の価値があると認められるAYOが創造されました。彼らが奏でる音楽に、心のどこか深いところが救われる思いを覚えるからです。AYOは、未来

への共通の願望を表現していると言えないでしょうか……」というコメントを寄せています。

日本、中国、香港、台湾、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの11か国・地域から厳しいオーディションで選ばれた100名余のAYOメンバーは海外での3週間のリハーサルキャンプに続き、国際的に活躍する指揮者やソリストとの3週間のツアー、計6週間の日程で活動します。アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアで450回余の公演を行い約110万人もの観客を魅了してきました。日本では各地で120回余を越えるコンサートや特別プログラムを開催してきました。その中には、2011年の東日本大震災で亡くなられた方々を追悼した宮城県荒浜での演奏も含まれます。



最後にアジアユースオーケストラ創立30周年記念に際して芸術監督・指揮者リチャード・パンチャス氏は日本香港協会の皆様に次のようなコメントを送っています。

On this 30th anniversary of the Asian Youth Orchestra we share appreciation with our friends at the Japan Hong Kong Society who have helped us build a solid rock of support and audience base across Japan. Thank you for the many best wishes we share.

尚、本年は「アジアユースオーケストラ日本公演2020（アジアユースオーケストラ創立30周年記念公演）」と銘打って綾瀬市オーエンス文化会館、東京オペラシティコンサートホールで開催予定でしたが「新型コロナウイルス感染」拡大のため2021年に延期となりましたことをご報告致します。皆様方に於かれましてはくれぐれも健康にご留意ください。



CMMS「華人経営研究」講座について

日本香港協会 特別顧問 藤澤 慶彦

新型コロナウイルスの世界的拡散の影響でCMMS (Chinese Management & Marketing School) は開講を3ヶ月遅らせて7月開講としました。このため、4月9日の開講式は中止して今年に限り実践編(7月-9月)を先行して理論編(9月-11月)を後半にして順序を逆にして開催することにしました。

今回が第15期であり再開後は3年目となります。その特徴は次の通りです。

目的：社会教育の推進を図り、同時に学術文化の振興を図る

主催：NPO法人日本香港協会(東京)、二松学舎大学
場所：二松学舎大学(東京都千代田区九段南)

※同大学は渋沢栄一と親交のあった漢学者三島正州を学祖とした創立140年以上の中国とゆかりの深い大学

講座構成：これまでと同様“理論編”と“実践編”に分けてそれぞれ10講座、合計20講座(講師19人)

◆理論編：中国古代思想の本質論を説く

理論編は国情、儒教/道教、兵法/韓非子、華人ネットワークの4つのパラダイムに分けている。

国情：田中仁氏(大阪経済法科大学教授) 園田茂人氏(東京大学教授)に加えて高橋伸夫氏(慶應義塾大学教授)が中国の国情について、歴史的・地政学的分析に加えて面子・関係・人情など固有の社会的通念と共産党の構造的課題を分析する。

儒教/道教：小島毅氏(東京大学大学院教授)は中国固有の天命思想や公私の概念を、牧角悦子氏(二松学舎大学教授) 横手裕氏(東京大学大学院教授)はそれぞれ儒教と道教の基本概念の変遷を講義する。

兵法/韓非子：湯浅邦弘氏(大阪大学大学院教授)は諸氏百家に関する日本の第一人者で、毎年2講義を受け持つ。戦わずして勝つ詭道としての兵法と、秦の始皇帝の統治概念に大きな影響を与えた韓非子の講義をする。これに今年は荀子も加わる。

華人ネットワーク：濱下武志氏(中山アジア太平洋学院院长)は世界的拡がりを見せる華人のネットワークの権威で、血縁・地縁・業縁を軸とした繋がりや耳慣れない合股概念の説明がある。国情における公私の概念と華人ネットワークを知ると、中国では贈り物が大切な習慣であることが分かる。逆に言えば贈賄・収賄の習慣はなかなか直らない。因みに奈倉京子氏(静岡県立大学准教授)は濱下教授の教え子で中華社会の輪郭の講義をする。

◆実践編：理論編で学ぶ各種概念を実践講師の話で確認する

中国経済：関志雄氏(野村資本市場研究所シ

ニアフェロー)は中国経済の現状と課題を、松田庄平氏(法政大学経営大学院教授)は人民元の国際化と中国のブロックチェーンの将来性について、それぞれ分析する。
中国市場攻略：田淵義和氏(A1ベーカリー香港社長)はパンを通じた香港中国への進出の成功と失敗、萬歳教公氏(セブン・イレブン顧問)は兵法と誠意を以って中国事業の成功を、ご子息の萬歳寛之氏(早稲田大学法学大学院教授)は国際法から見た日中、中台両関係をそれぞれ説明する。

中国企業台頭：アメリカのGAF(A Google, Amazon, Facebook, Apple)を追う中国のBATHT(Baidu, Alibaba, Tencent, Huawei)の現状と課題については後藤康浩氏(亜細亜大学教授、元日経論説・編集委員)と国吉澄夫氏(日中関係学会副会長、元東芝)が担当する。デジタル化、AI、5Gで遅れを取った日本企業はどうすべきかを議論する。

香港コネクション：中井邦尚氏(JETRO、企画部海外地域戦略主幹)は香港の社会情勢の先行きが懸念される中で、中国本土のみならず東南アジアへのビジネス拠点としての香港の重要性を、伊東正裕氏(香港貿易発展局東京事務所長)は一带一路の現状と課題、大湾区についてそれぞれ分析する。

特別講義：本講の掉尾を飾るのは浦西友義氏(元金融庁審議官)で、政策担当者から見た日中経済政策の比較を講義する。同氏は横浜税関長、英国駐在公使、東京証券取引所常務など多彩な経歴の持ち主でもある。

なお、今年は日本人受講生のみならず2人の中国人(日本企業社員、在日企業社長)が参加しております。

日本香港協会としては本講を通じてNPO法人として社会教育の推進と学術文化の交流を深めるとともに、中国・東南アジア・香港との貿易発展に寄与できることを目指します。



2019年開講式

時代を先取りした軽鐵に見る、欧州の面影

青田 孝

大空の青天井を支えるように、四角柱の高層マンションが林立する香港は新界。その谷間の公園には、ベンチでくつろぐ若夫婦のベビーカーから、小さな手が空に向かって伸びる。目の前の池では老いも若きもラジコン・ボートに夢中で、そのエンジン音が、かつてのトレンドイ・ドラマを思わせる、まったくした空気を切り裂く。

隣接するMTRの駅に目を転じると、傍らにライトレールが走る。ホームへ向かう。オクトパスを駅の機器にタッチして車内へ。扉が閉まり軽快に加速する。最高速度は時速70キロ。しかし途中で信号機は1つもない。運転士が前を見て安全を確認する。低速の路面電車ならともかく、この速度での有視界運転は珍しい。

次の駅に停車、運転士の表情は見えない。それでも乗客が駆け込んでくれば、ドアを閉めるのを待つ。道路の反対側で手を上げる人がいれば、暫し発車を控えるなど、乗客との距離感は近い。ここら辺りに路面電車としての良さを残し、高齢化社会にもやさしいようだ。

改札口がないので気楽に乗車できる。これは日本をはじめアジアでは極めて珍しいが、欧米の大半の国では、一部の地下鉄を除き鉄道も路面電車も、道路とプラットホームに何ら仕切りはない。乗客は必ず乗車券を買って乗る、というお互いの信頼関係から「信用乗車」とも呼ばれる。だからと言ってただ乗りはやめた方がいい。長距離列車は乗車後すぐ車掌が来る。さらにライトレールや地下鉄も抜き打ち的に検札がある。正しい乗車券を持っていないと、いかなる理由があっても、通常料金の100倍程度の罰金を徴収される。香港でもしかり。まだ残念ながら検札に遭遇したことはないが、罰金はHK\$50

という。

この信用乗車は大きな利点をもたらす。日本の路面電車などは、乗車時または下車時に運転士が料金を徴収するため、乗客の数だけ停車時間は伸びる。信用乗車なら運転士は客扱いに一切関わらず、運転に専念できる。また、全てのドアから乗り降りできるため、乗降時間も短くなり、定時運行にも寄与している。

ライトレールは元をたどれば、アメリカで生まれた「輸送力が軽量な」都市交通を指す言葉だ。LRT（ライト・レール・トランジット）とも言われ、昨今、都市の排気ガス汚染対策などから世界的に脚光を浴びている。ヨーロッパの特急が止まるような主な都市の駅を降りると、その姿をよく見かける。さらに廃線を復活させる所も多い。

香港では「軽鐵」。実に巧妙な訳語とともに走っている。世界的には路面電車との明確な区分けははっきりしない。それでも香港では香港島を走る2階建ての路面電車は「トラム（香港電車）」と呼ばれ、微妙に区分けされているようだ。レール幅も100年以上前に敷設されたトラムは、線路幅がいわゆる植民地ゲージ（軌間）の1067ミリなのに対し、約30年と歴史が浅い軽鐵は、新幹線と同じ1435ミリの標準軌だ。

「軽鐵」の敷設計画が持ち上がったのは1970年代。同地区の住宅開発に伴い、軌道用地をあらかじめ用意していたという。当初は2階建てトラムと同じ車両を、という計画もあったようだが、結局、現在の姿に落ち着く。しかしスナリとは開業できなかったようだ。1985（昭和60）年に着工も、既存のバス路線との調整に時間を要し、路線の棲み分け等、長期にわたる検討の末、88（昭和63）年に工事を終えた。しかし試運転中に歩行者、自転車、自動車と度重なる事故を起こし営業は延期に。それでも1カ月で難題を解決。屯門から東北方面に青山公路を通って元朗へ行く本線と、屯門地区内の住宅地を結ぶ2路線で営業を開始した。その後、支線の建設が進み、現在はMTR・西鐵線の元朗、天水圍、兆康、屯門の4つの駅を結節点に、8つの路線（重複部分あり）と4つの区間運行の総延長は36.15キロに。文字通り、網の目のような路線網を展開し、その駅は68を数える。

車両は開業当初はオーストラリア製だった。その後長らく日本製が主流を占める。しかし2009（平成21）年、再びオーストラリア製が登場。組み立てこそ中国のメーカーだが、そのなんとなく、ヨーロッパの香りを漂わせるデザインを見ると、軽鐵はやはり、アングロサクソンの置き土産なのか。



高層マンションを背景に走る軽鐵、ほぼ100%専用軌道だ

青田孝／フリーランス・ライター。日本記者クラブ会員。著書は『鉄道を支える匠の技』（交通新聞社新書）、『トクトンやさしい電車の本』（日刊工業新聞社）など。

学生交流支援プログラム「スタディツアー」&大学エグゼクティブセミナー

NPO法人日本香港協会（東京）理事 大庭 忠良

日本香港協会は香港の学生支援の一環として、日本の学生が香港へ、香港の学生が日本へ来日し、文化交流を行うスタディツアーの支援を行っております。香港の大学生が日本の大学と企業を知る、という趣旨のスタディツアーに協力し、日本の企業、大学のご支援をいただきながら、大学交流と企業見学を実現しております。

昨年5月には初めて、香港のビジネススクール主催社会人学生によるスタディツアーも実施し、日本企業の経営者懇話の機会を実現しました。すでに社会人として活躍している人々が参加するツアーは、学生とはまた趣の違うところもあり、実業に即した具体的な質問、提案が多数飛び出し、見学先の日本企業の皆さまにとっても、新しい気づきが生まれた一面がありました。

そして、19年には初の試みとして、日本の大学生が香港大学特別プログラムを受講するスタディツアーも開催しました。グローバルリーダーシップ育成に役立つ特別プログラムを香港大学が日本の大学のために構築、日本の大学生が、香港大学の学生と共に、最先端のグローバルリーダーシップ教育プログラムを受講しました。講義は全て英語で行われ、またグループディスカッションやフィールドワークなどを通し、香港大学学生とも活発な意見交換を行いました。最終日には、5日間の成果を英語でプレゼンテーションしました。初めての香港、初めての海外、という参加学生もいた中、公共交通機関を利用して見学先へ移動し、成果報告のプレゼンテーションを、香港大学の学生とディスカッションを重ねてまとめ上げるといった経験を通し、現地滞在はわずか1週間でしたが、その短い期間に多くの経験を重ね、帰国の途につく頃にはすっかりたくましい顔つきになり、一回りも二回りも成長している姿が印象的でした。

このような機会を通し、香港の学生が日本に関心をもち、日本の学生が香港に関心をもち、未来を担う若者同士の交流が続いていくことで、香港と日本が一層より良い関係を築き、共に発展していくきっかけとなれば幸いです。

です。世界の情勢は厳しさを増しますが、引き続き、学生交流活動の支援を続け、港日の若者の交流機会を促進してまいります。

また、日本香港協会文化交流の一環として、日本の大学の経営層の方々に、海外の先進的な大学の取り組みをご紹介するリコージャパン主催の大学エグゼクティブセミナーの後援も行いました。昨年12月に実施したセミナーでは、香港科技大学より講師をお招きし、香港科技大学のグローバル戦略をお話いただきました。

皆さまもご存知の通り、優秀な人財を輩出し、企業が注目する大学としても有名な香港科技大学では、世界中から優秀な才能を集めるための様々な戦略を持っています。学生達のネットワークを重視し、科技大出身の卒業生が世界の企業で活躍し、その成果をみた若者が、より高度な勉強や研究が出来る場として科技大を選んで世界から集まる、という良質な循環を作り出しています。MBAプログラムも高い評価を受けており、MBAワールドランキングアジア1位を獲得している香港科技大学の革新的な取り組みは、セミナーに参加した日本の大学関係者からも注目されておりました。香港の大学は、世界ランキングの上位に位置する大学が多く、それぞれ特徴のある取り組みをしております。卒業生はグローバルに活躍する学生も多く輩出しており、大学数としては少ないながらもその先進的な取り組みは日本の関係者にとっては、参考になる点が多いようです。今後も、香港の大学の活動を紹介する場として、このような取り組みの支援を続けて参りたいと存じます。

世界情勢が複雑化している昨今こそ、このような草の根の交流活動は未来へ繋がっていくものとなるでしょう。違う文化の地域同士が交流することは相互理解につながり、学生にとっては自身のキャリア形成にも非常に役立つ体験になると考えます。今後も更に多くの学生に同様の機会が作れるよう、困難な現状に立ち向かう若者を少しでも支援していくことができれば幸いです。



大学エグゼクティブセミナーの様子

香港政府と香港貿易発展局が春節レセプション開催

香港貿易発展局 コーポレート・コミュニケーション&マーケティング・マネージャー 米岡 哲志

香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部ならびに香港貿易発展局は2月6日、帝国ホテルにて、中国の春節（旧正月）を祝う恒例のレセプションを開催いたしました。会場には香港と日本の交流に従事する関係者の方々に多数お集まりいただきました。冒頭では翁佩雯（シェーリー・ヨン）香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部首席代表と三原朝彦日本香港友好議員連盟副会長からごあいさつがありました。

続いて孔鉉佑駐日中国大使のごあいさつと乾杯の音頭があり、主催者およびご来賓の皆さまの記念撮影が行われました。お食事とご歓談の時間には、長く港日交流にかかわられてきた方々が旧交を温める姿や、初めて参加される方同士が主催者スタッフを通じてネットワーキングされる様子があちこちで見受けられました。宴もたけなわとなった中盤からは、香港から来日したアーティスト「SMASH」によるパフォーマンスが繰り広げられ、来場者の目をくぎ付けにしました。それもそのはず。ハーモニカを演奏した何卓彦（CY Leo）さんは、2013



年に19歳でソロハーモニカ演奏の世界チャンピオンに選ばれた実力者。19歳での受賞は最年少記録でもありました。

続いて、横浜中華学院校友会のみなさんによる、華麗な獅子舞（ライオンダンス）の練り歩きが披露されました。同会の公式サイトによると、中国では獅子は門の前で家を魔物から守っているものと信じられ、このため今でも廟や宮殿その他建造物の前には獅子の石像が置かれるのだとか。ここから転じて、獅子が人々の生活をおびやかす悪霊を退治するという獅子舞が誕生したそうです。

最後に朱耀昌（サイラス・チュー）香港貿易発展局日本首席代表が閉宴の辞を述べました。会場にはその後も名残を惜しむかのように多くの方が残られ、楽しい会話に花を咲かせました。



主催団体である香港政府・香港貿易発展局の代表者と日本香港協会新旧理事の面々

【お知らせ】

新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界中で渡航制限が実施され、企業が従来通りの購買、生産、出荷、販売・マーケティング、サービスといった事業活動を展開することが難しくなっています。香港貿易発展局では、こうした状況に対する解決策として、日本企業の皆さまにご利用いただける電子商取引（Eコマース、EC）のサービスを多数ご用意いたしました。一方、香港政府は景気対策の一環として、香港貿易発展局が2020年度に主催する展示会、国際会議の出展費・参加費を1万香港ドル（約14万円）を上限に補助することを決めました。補助金の利用に当たって面倒な申請手続きは一切必要ありません。詳しくは➡<https://bit.ly/39PIVRp>

香港貿易発展局 東京事務所 (Tel: 03-5210-5850)、大阪事務所 (Tel: 06-4705-7030)
公式サイト: www.hktdc.com/Japan



NPO法人日本香港協会 学術・スポーツ交流委員会

爽快豪快マリンイベント 横濱ドラゴンボートレース

毎年恒例の横濱ドラゴンボートレースは、6月2日の横浜開港記念日の前後週末土日に2週にわたって開催されます。もともと横濱ドラゴンボートレースは、1994年第13回横浜どんたく開港祭（現在の横浜開港祭）のマリンイベントとして、香港よりドラゴンボート（龍舟）6艇を横浜に移送し第1回を開催したものです。ご本家の香港をはじめ、アジア、アメリカ、ヨーロッパなどグローバルに開催されています。

去年は当協会の会員等で構成する「飛龍チーム」として参加しました。チームには親子三代で参加されたファミリーもあり、小学生のお子さん3名も加わって、素晴らしい漕ぎっぷりを披露しました。

レースは山下公園前海上で行われ、大さん橋側から出



「飛龍チーム」のみなさん

漕、氷川丸手前地点まで約260mの距離を3艇のドラゴンボートで競います。太鼓のリズムに合わせてパドルを漕ぎ、心地よい潮風が香る水面をボートとともに走る経験はなかなかで



爽やかな風が渡る横浜港は眺めも最高！

きないものです。そして、さわやかな汗をかいた後のお楽しみは打ち上げでの一杯。毎年、横浜中華街の知られざる穴場のお店で大いに盛り上がり、参加者からも大好評を得ています。

今年2020年は第27回を迎える予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルスが影響して開催中止となりました。同じく香港の「端午節に行われるドラゴンボートフェスティバル」も中止となりました。香港の夏の風物詩として親しまれているドラゴンボートレースは、毎年香港各地で開催され、多くの香港市民が楽しみにしています。

また世界中から強豪チームが集結する「ドラゴンボート・カーニバル」もビクトリア湾での開催が中止となりました。しかし来年こそは開催できるものと思います。

広東語でドラゴンボートを漕ぐことは「扒龍舟（パロンジャウ）」と言います。

ぜひ来年こそみんなで一緒に扒龍舟しましょう！

NPO法人日本香港協会 文化交流委員会

パウヒニア会 新担当で活動を活性化

文化交流委員会活動の一つであるパウヒニア会は、去年は大きな活動ができませんでした。パウヒニア会は、当協会の女性会員で構成されるコミュニティです。この度、第19回通常総会において新しく理事となった内山敏琪さんと佐藤奈々子さんに担当をお願いし、パウヒニア会を活性化していきたいと思っています。パウヒニア会は、これまでトークイベントや交流会などを開催してきました。これからはさらに内容を充実させ、全国の各協会に所属される女性会員の方とも交流を図っていききたいと思います。

現在、空間デザイナーとして活躍している内山さんは香港出身でメディア制作の経験もあり、今後はその人脈を生かしたグローバルな企画を期待するところです。また東京スター銀行に勤務する佐藤さんは、香港に住んでいた経験もあり、今後は香港アジアで活躍したい女性向

けのビジネスセミナーなどの企画を一緒に考えていきたいと思っています。いっぽうで、これまで続けてきた火鍋パーティなど、香港の文化を通して会員同士の交流を深める楽しい企画も開催していきたいと考えています。



女性新理事の内山敏琪さん（写真左）と佐藤奈々子さん（写真右）



関西日本香港協会 事務局

2020年度総会とチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー

2月19日にヒルトン大阪で2020年度の総会を開催しました。総会には22名が参加し、戒田会長より今年も会員に喜ばれる事業を実施し、会員増強に注力したいとの方針が述べられました。前年度の決算報告と事業報告、本年度の予算案と事業計画が承認され、田島等氏の副会長兼文化部長、田岡敬造氏の事務局長への就任、日本真珠輸出組合専務理事の内海芳宏氏の理事就任が承認され、16名の役員で今年の協会を運営することになりました。

ヒルトン大阪で開催されたチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーは、香港の厳しい政治情勢とコロナウイルス感染問題発生にも拘わらず、126名が参加して今年も盛会でした。パーティーは戒田会長の挨拶で始まり、香港貿易発展局日本首席代表サイラス・チュー氏の歓迎挨拶、香港特別行政区政府駐東京経済代表部次席代表アンドリュー・ファン氏の来賓挨拶に続いて、中華人民共和国駐大阪総領事館の総領事何振良氏が乾杯の音頭をとられ、旧正月特別料理の会食に移りました。何総領事は乾杯に先立って、中国でのコロナウイルス感染は中国で収束に向かっており、日本と中国の友好促進に注力したいと話されました。

アトラクションは私のパリーで活躍中のピアニスト結城麻菜さんのピアノ演奏(ドビュッシー「月の光」、ショパン「ノクターン2番」、プーランク「エディット・ピアフを讀えて」、ベートーベン「ピアノソナタ月光」)を楽しみました。皆さんの積極的な交流で賑やかだった会場が、麻菜さんの優雅な雰囲気と美しいピアノの音色で静かになり、音楽ファンの皆さんに大変喜んでもらいました。



ピアノを演奏する結城麻菜さん

又、お楽しみのラッキー・ドローでは、多くの会員企業から86個の景品提供があり、特別賞のキャセイ航空



ラッキー・ドロー特別賞の当選発表

提供の香港往復ペアー航空券の抽選の際には場内が最高に盛り上がり、田中義次副会長の閉会の挨拶で楽しかったパーティーを終了しました。

今尚元気、スーパーシティ香港の将来性

2月19日にヒルトンホテルの「京都の間」で104名が参加した香港セミナーを実施しました。

講演1:「大湾区と共に発展する香港」
法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授 松田庄平氏

「大湾区」構想と高度経済発展の様子を豊富な資料で詳しく解説されました。特に、急速に発展した大量のベンチャー企業を輩出している深圳の社会的インフラ、大湾区の経済連携と交通網とインフラ整備、中国の「一带一路」構想との関連性、技術面のパイオニアとしてさらなる発展を目指す大湾区の「ブロックチェーン構想」では香港の金融インフラとの融合などについても説明されました。日本企業にとって、香港を拠点として発展する大湾区に進出する必要性を痛感した講演でした。

講演2:「Designed by Hong Kong. Made in Japan」
Hintegro Ltd. 社長 Mr. Keith Chan

Mr. Chanは日本の伝統工芸や建築美を取り入れたインテリアデザイナーで日本庭園や高級住宅の設計で香港、中国、アメリカ等国際的に活躍している建築デザイナーです。お忙しい中香港から来ていただき、日本の建築美と機能性とデザイン性に優れた家具類の作品をスクリーン映像で説明され、今後共日本企業との提携を進めたいと話されました。

講演3:「日本企業の香港を活用した海外事業展開」
株式会社ユニオン 宣伝広告室室長 宮本尚幸氏

宮本氏は、ドアハンドルなど建築金物のトップメーカーである同社が、香港貿易発展局が香港で開催している展示会を舞台にして香港での事業で成果を挙げている事業戦略と実践を詳しく説明されました。



セミナーで講演する法政大学の松田教授



中京日本香港協会 事務局長 佐藤 亮一

令和元年度総会及び春節パーティ

今年は暖冬で過ごしやすいと誰もが思っていた矢先、新型コロナウイルス感染症が世界中に猛威を振るい、いつ終息するのか不透明な状況に一変し、安心して外出できない毎日となってしまった。

恒例の中京日本香港協会主催の令和元年度総会および新年親睦会は、昨年のうちに理事や関係者が出席すると確認ができており、今年も開催することとなった。ただし、こうした時期ではあるので、ホテル側料理への配慮も一層チェックを強化留意した。

2月12日に開催された総会においては全理事出席のもと、令和元年度の活動報告および決算報告、令和2年度の活動計画、行事予定などの報告が行われ、全員一致の了承を得た。さらに、その席上でゲストとしてお招きした香港貿易發展局大阪事務所長サミュエル・チェン氏より、日本のテレビなどの報道に対して、実際は経済や街の状況は安定しているなど、香港の現状について報告があった。

総会後の春節パーティでは78名が参加。前述のサミュエル・チェン氏と香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部次席代表アンドリュー・ファン氏の挨拶に続き、当協会名誉会長高橋治朗氏の乾杯の音頭を頂き、和やかにパーティはスタート。1月25日である中国春節には月遅れではあるが、当年度初めての会員参加の親睦会となり、名刺交換や新年挨拶などが盛んにおこなわれた。

日本では連日、新型コロナウイルス、新型インフルエンザ、エーロゾルなど風評被害含め自分自身の衛生管理が強く叫ばれており暗い影を落としているが、豊島会長の「元気をつけることが大事、前向きにいこう」という発声により会場内がパッと明るく一変した。

ライオンダンスの余興に続いて、ラッキードローでは、



各参加企業、個人会員からの寄付・景品プレゼントもあり、参加者は大喜び。最後のキャセイパシフィック航空券の当選発表で最高潮に盛り上がった。こうして盛大に終了できたのも各界からの協力の賜物と感謝している。

香港から愛知への訪問客

一方、中京協会として反省点もある。香港から愛知への訪問客の伸び悩み問題である。昇龍道PRにより中国含め東南アジアからの来訪客は伸びており、日本政府観光局（JNTO）の発表した訪日外国人統計によれば昨年10月香港人の旅客数は前年同月比6.5%増18万人強、1～10月では前年比0.6%増184万人強。だが、愛知の香港人の来訪客は外国人全体の9%と低い。

運輸関連では全日空ANAは3月29日より香港～名古屋線が運休となった。一時的とはいえ需要が回復すれば、再び定期便として復活する旨が香港紙で取り上げられている。我々としても一助になればとワールド・コラボ・フェスタ（毎年10月開催）では香港旅行、経済のPRを行い、（市民運動、ウイルスなどの）負のイメージが解決されるよう協力をしている。さらに名古屋では、セントレア空港が今年開港15周年を迎え、セレモニーに始まり、さまざまな記念イベントが予定されていたが、残念ながらその多くが中止・変更された。2005年愛知万博と同時に開港したセントレア空港を通じて、愛知に香港からの来訪客が増え、活況の引き金になればと願うばかりである。





九州日本香港協会 事務局

2020年春節セミナー&パーティー

1月20日(月)16:00より香港貿易発展局との共催による「2020年春節セミナー&パーティー」をホテル日航福岡にて開催いたしました。

冒頭に、石原会長による開会挨拶、香港貿易発展局大阪事務所のサミュエル・チェン所長にご挨拶をいただいた後、セミナーに入りました。まず初めに、九州電力株式会社相談役の貫正義氏より、「香港視察で学んだこと」ということで、九州ニュービジネス協議会で開催された大湾区視察に団長として参加された報告を含めてご挨拶を頂きました。その後、貫氏と共に副団長として参加されたチエイマイグループ代表の今井千恵氏より、より詳しい報告や印象、所感についてご講演いただきました。次に、株式会社タカミヤ代表取締役会長の高宮俊諦氏より、「九州の自立的発展のために『北九州市統合型リゾート誘致の説明』について」というテーマで、香港やマカオから北九州に提案されているIR事業についてご講演いただきました。

講演の後、コーディネーターとして石原会長、パネラーとして貫正義氏、今井千恵氏、高宮俊諦氏にご登壇

いただき、「香港を中心とした大湾区構想と九州の未来」というテーマでパネルディスカッションを行いました。ディスカッションでは、講演でお話をいただいた内容を基に、さらに具体的に、大湾区の活性化や九州との関係性、IR事業における九州の観光メリットやリスク等を中心に活発な意見交換が行われました。

セミナー終了後、春節パーティーでは、来賓として香港経済貿易代表部の代表トーマス・ウー氏と、福岡県副知事の江口勝氏にご挨拶を頂きました。また、関係企業からのご協賛により、毎年恒例のラッキードローも行われ、会場は大いに盛り上がりしました。



春節セミナー&パーティー

福岡県香港事務所 所長 山奇 智幸

香港ロリータ協会とのお茶会を開催

福岡県香港事務所では、日本に関心が高く、情報発信力もある20~30代の女性で構成される香港ロリータ協会とお茶会を開催している。昨年1月には、香港で人気の洋菓子店と共同で、あまおうと八女の和紅茶などを使ったアフタヌーンティーセットを提供し、福岡の観光PRと合わせて県産食材を紹介した。あまおうは香港でも人気は高いが、近年、他県や韓国などとの競合も激しい。そのため、経済的に余裕のある中高年層だけでなく、若者層にも県産品をPRするため、インフルエンサーでもあるロリータの皆さんに、SNSなどを通じて情報を発信してもらった。非常にユニークな取り組みとして、お茶会の様子は、現地メディアでも大きく取り上げられるなど注目を集めている。



香港ロリータ協会とのお茶会

今年1月にも香港福岡県人会メンバーが代表を務める人気レストランで、あまおうや八女抹茶を使用したアフタヌーンティーセットを提供するお茶会を開催。香港に進出している県内食品関連企業の明太子の試食や出汁パックの試飲などを行った。地道な活動を続けた結果、在香港日本国総領事館やジェトロ香港の担当者も視察に來られたり、若い女性が主要顧客である化粧品会社やジュエリー会社などもイベントに参加されたりするなど、食以外の関係者の関心も高まっている。香港ロリータ協会とのイベントは、食単体ではなく、観光や若い女性に人気の商品など複数の要素を一体として売り込むことで参加者もより楽しめる内容となっており、過去3回のイベントは定員40名の枠が直ぐに埋まるなど大変盛況であった。



お茶会の様子



山形日本香港協会 事務局

2019年12月香港訪問レポート

去る2019年12月、山形日本香港協会を代表して、日本香港協会全国連合会総会及び交流会、記念すべき第20回目の開催となる『香港フォーラム2019』へ参加させていただきました。山形日本香港協会からは、大沼みずほ会長、リンベル株式会社より竹内浩介香港駐在所所長及び井上博美香港駐在所銷售經理が初参加となりました。また、株式会社ベストフーズの鈴木亮吉代表取締役社長と当協会の長沢侑事務局長（所属：株式会社クリエイト礼文）が一昨年に続き、2年連続での参加となりました。また、交流会と香港フォーラムの合間には、在香港日本国総領事館の和田充広大使兼総領事との意見交換の食事会、リンベル株式会社の在香港事務所（商号：RINGBELL International Company Limited）を見学させていただくことができました。その内容をこの場をお借りして、報告させていただきます。

◆日本香港協会全国連合会総会及び交流会

一昨年12月の総会及び交流会で初めてお目にかかり、ご挨拶をさせていただいた全国各地の日本香港協会の会長や事務局、会員の皆様と香港で再会することができました。逃亡犯条例改正案に端を発する2019年3月に始まったデモの影響もあってなのか、一昨年と比較すれば少ない参加者数であったかと思いますが、それでも数多くの会員が香港に集まり、更に交流を深めることができました。また、2019年は当協会が幹事協会ということで、交流会の司会進行という大役を仰せつかりました。進行にご協力をくださった皆様に対し、この場をお借りして御礼申し上げます。

◆『香港フォーラム2019』

第20回となる『香港フォーラム2019』に、昨年に続き、参加いたしました。今年もアワード受賞式がありましたが、将来的に山形からも受賞者を出せるように、当協会の会員拡充や広報活動、会員の皆様への支援を更に進めて行かなければならないと身の引き締まる思いがしました。



◆在香港日本国総領事館との意見交換会

一昨年12月の香港訪問時に引き続き、大沼みずほ会

長のお取計らいにより、在香港日本国総領事館の和田充広大使兼総領事及び大使館員2名との意見交換会の場を持つことができました。

和田大使との数多くの貴重なお話の中で、特に印象に残ったものがあります。それは、「一見した限りではわからないかもしれないが、（デモによる様々な影響により）香港の人達は大変心が傷ついている。その心の傷を日本ならば、癒すことができるのではないか。」というものです。「香港の人々の心の傷」という話は、香港在住の会員の方からもお聞きしていました。また、今回実際に香港に訪問し、夜の街の賑わいなどを見ると、デモによる見えない影響というものが感じることができました。香港の人々の為になにができるのかを当協会としても考えて、会員の方々と一緒に行動に移していきたいと思えます。

◆RINGBELL International Company Limitedへの訪問

当協会の会員でもあるリンベル株式会社が伊藤忠ロジスティクス株式会社と、アジア圏を主ターゲットとしたカタログギフトと予約注文のカタログを企画・販売する合弁会社として香港に設立した「RINGBELL International Company Limited」様の事務所へ訪問させていただきました。

リンベルと伊藤忠ロジスティクスは、2016年から香港の富裕層をターゲットとしたカタログギフトや日本の農畜産物品の販売に取り組み、法人ルートでのトライアル販売を行ってきましたが、同事業を本格化させるため、2019年5月に香港に合弁会社を設立されたとのこと。リンベル株式会社が日本のギフトマーケットで培ったカタログギフトのノウハウとオリジナルギフトブランド「日本の極み」「山形の極み」商品を、香港を足掛かりとして、香港以外のアジア圏にも事業を拡大していかれる予定とのこと。間もなく、日本の文化であるカタログギフトが香港の人々に親しまれるようになっていくのではないのでしょうか。



リンベル様事務所内ディスプレイ（取扱商品）

今回の訪問でもそうでしたが、毎回香港を訪問するたびに、香港の人々や街、香港で活躍する日本の友人達に大きな刺激を受けて、日本に帰ってきています。そのとき受けた刺激をそのままお伝えすることが山形県と香港との関係をより深める大きな方法だと思えますので、その発信を行っていきたく思います。



北海道日本香港協会 事務局

総会開催

2月3日(月)に総会を開催致しました。今回の総会では会長選任の議案審議が行われ、石井純二会長から石水創氏への交代が満場一致で承認されました。石水新会長が代表取締役社長を務める石屋製菓株式会社は、北海道を代表する銘菓「白い恋人」を始め、北海道の良質な原材料を使った数多くのスイーツを製造・販売しています。また、札幌市西区の工場に隣接する施設「白い恋人パーク」には、香港をはじめ世界各国から数多くの旅行客が訪れています。

総会において石水新会長は、「北海道日本香港協会が、香港とのビジネス・文化交流の架け橋としての機能を発揮できるよう、関係諸機関と連携してゆくとともに、会員増強に向けて取り組んでいく」と、ご挨拶されました。

今年度の役員は以下の通りです。引き続き当協会の活動へのご支援宜しくお願い致します。

<役員>	<氏名>	<現職>
会長	石水 創	石屋製菓株式会社 代表取締役社長
副会長	町田 隆敏	札幌市 副市長
副会長	安齋 勲	大和交通株式会社 取締役相談役
副会長	永島 雄二	日本清酒株式会社 代表取締役社長
副会長	新川 新一	全日本空輸株式会社 執行役員北海道支社長

香港ビジネスセミナー2020開催

2月3日(月)に「香港ビジネスセミナー2020」を札幌グランドホテルで開催しました。

開催に先立ち、香港貿易開発局サイラス・チュー日本首席代表から主催者を代表してご挨拶頂くとともに、来賓を代表して香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部首席代表シェーリー・ヨン様からご挨拶頂きました。

講演では、まず始めに香港貿易開発局伊東正裕東京事



来賓挨拶される香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部シェーリー・ヨン首席代表



講演される香港貿易開発局伊東正裕東京事務所長

務所長より、「国際ビジネスプラットフォームとしての香港の役割」と題し、日本・北海道と香港の貿易、香港市場の優位性、日本企業の香港進出などについてご講演頂くとともに、昨年12月に香港で開催された「香港フォーラム」について、動画を用いてご説明いただきました。

次に、香港での勤務経験が長く、現在も香港に駐在しておられる、香港日本人商工会議所・香港日本人倶楽部の事務局長である柳生政一様から、「現場の生の声から発信する香港の最新状況」と題して、香港における抗議活動の現状や経済への影響について、現地の写真を用いて紹介いただきました。更に、柳生氏



講演のため香港よりお越しいただいた香港日本人商工会議所・香港日本人倶楽部柳生政一事務局長

の講演の途中には、JTB (Hong Kong) Ltd. 取締役社長である安部晃士様に急遽ご登壇頂き、抗議活動による観光産業への影響についてご講演いただきました。

最後の質疑応答では、香港の現地情勢や香港との貿易に関心のあるお客様に多数ご来場頂いたこともあり、当初予定していた時間に収まらず、閉会後も講師との名刺交換や意見交換が活発に行われていました。

引き続き当協会では、香港と北海道の経済交流促進に取り組んでまいります。



主催者挨拶される香港貿易開発局サイラス・チュー日本首席代表



宮城日本香港協会 事務局

2020 春節セミナー&パーティー開催

2月20日（木）17時から2020春節セミナー&パーティーをパレスへいあんに於いて開催しました。寒い中、約60名もの参加者を得て、宮城県副知事の遠藤信哉氏、仙台市経済局長の遠藤和夫氏、そして香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部代表シェーリー・ヨン氏を来賓に迎え、盛大に開催することができました。

大坪代表理事の挨拶で幕を開け、香港貿易発展局東京事務所長の伊東正裕氏、ジェトロ仙台所長の伊藤亮一氏の講演の後、本日のメイン講演として「香港マーケットの最新状況と成果を出す商談の秘訣」と題して、ガレオン・ジャパン株式会社代表取締役の雷彩霞氏から、約40分にわたってお話がありました。

雷氏からは、ガレオン・ジャパンを創業したきっかけが、日本産の食品を世界中のより多くの人たちに届けたいとの思いだったこと、そして、ハムソーセージ等の加工食品、カキ・エビ・ホタテなどの冷凍水産品、そして日本のたまごなどの輸出事業を行っていること、特にたまごについては、香港展示会にて特設コーナーを設置してバイヤーにアピール、「香港Japan Egg親子料理教室」なども手掛けており、並々ならぬ日本食の普及に尽力さ



雷彩霞氏のセミナー会場風景

れている様子が紹介されました。

第2部はパーティーです。会場をことのほか湧かせたのが本日のアトラクション、サクソ（尾崎栄二氏）とピアノ演奏（佐藤貴洋氏）、そしてテレサ・テンの歌（ジャッキー・ヤン氏）のミニコンサートです。すばらしい演奏と男性ながら女性に劣らないテレサの歌に、会場は大いに盛り上がりました。

広東語教室で恒例の春節パーティーを開催

1月25日（土）午前11時30分から、荒川先生のお宅で、恒例の春節パーティーを開催しました。安達さん、藤田さん、倭室工房石井屋の石井洋さん、広州出身の阿部さんご夫婦、そして荒川先生のご主人も参加して、総勢8名の参加となりました。いつもながら荒川先生の手料理に、お正月はやっぱり「年糕」（ニンゴウ/お餅）、参加者一同「おいしいね」の連発、香港の食を堪能することができました。また、安達さんが香港から取り寄せた材料で特製の豆腐を作ってくれました。ほんのりとしたあたたかさとしさでとてもおいしかったですよ。

最後に荒川先生到北京オリンピックのキーホルダーや提灯、お年玉袋や葉など、香港グッズをおみやげにいただき、アツという間に夕方の5時、別れを惜しみ再開を約して散会となりました。



広東語教室「春節パーティー」、みんなで記念の一枚に



パーティー会場で、いよいよ乾杯です



沖縄日本香港協会 事務局

春節・香港ビジネスセミナー2020 in 沖縄 開催

令和2年2月21日15:30から、沖縄ハーバービューホテル宴会場アイランドブリーズにおいて春節・香港ビジネスセミナー2020 in 沖縄を「ライフスタイルから考察する香港の食文化と健康習慣」と題し、中医学博士の楊さちこ氏を講師に招き開催しました。

「2018年の平均寿命の国際比較」において、香港は「長寿世界一」を記録しています。香港の女性は87.66歳（日本の女性は87.26歳）、男性は81.70歳（日本の男性は81.09歳）でした。香港人は美食家が多い一方、美容や健康に対する意識も非常に高いといわれています。楊氏は、日本人で香港在住30年の中医学博士であり、効力と安全を求めた高品質の漢方美容・健康薬の開発を手掛け、香港の食文化・健康習慣に詳しく、香港の健康志向とその消費行動について講演していただきました。

楊氏は、「香港人は自分の眼で食材を選び、季節を大事にして旬の食材を選ぶ」「夏は赤いトマト、秋は白い白菜、冬は黒い食材を選ぶなど季節を大事にした食べ物を選んでいる」と香港人の食習慣について語りました。香港人は体温を下げる事により、血のめぐり・気のめぐり・水のめぐりが悪くなると考えており、冷たいものはあまり飲まない上、体を温める料理を好んで食べることでした。香港では、「サクサク」した油で揚げたものは苦手で、有名ドーナツ店も香港では少ないといえます。香港人の長寿の背景には、「季節のものを食べる、消化吸収の良いものを食べる、老廃物を排出しやすくする果物等を多く食べる、暖かい物を食べる」などの食習慣があると語りました。



香港人の食文化や健康志向を知ることにより、新たな商品やサービスの開発の参考になる有意義なセミナーとなりました。

香港へ臨時海上輸送を提供 ～航空国際線全便運休を受けて～

国際線航空便が大幅に減便・運休が続く中で、沖縄発着便でも同様の影響が強くなっていきます。琉球通運株式会社の新たな取り組みについて、以下同社のプレスリリース資料に基づき説明します。

沖縄貨物ハブネットワークの貨物機の全便運休決定の影響により、沖縄県産品の輸出貨物量の大幅な減少が予想される危機的状況にあります。海上・航空貨物の国際輸送サービスを手掛ける琉球通運株式会社は、運休期間中を対象として那覇から香港までの冷凍混載貨物の臨時サービスを行うことを決定しました。

沖縄では航空貨物の輸出取扱量が年々増加していますが、冷凍貨物を輸送する際には航空輸送または海上コンテナを貸切して輸送する手段しかなかったため小口貨物から大口貨物へのステップアップが難しい状況がありました。このため同社が2019年5月の那覇港総合物流センターへの冷凍倉庫入居を機に、中間の物量に最適な輸送手段を選択可能になることによって円滑な貿易の規模拡大を促すことを目的として冷凍混載サービスを構築し沖縄県産品の輸出拡大を目標に平成31年（令和元年）度に沖縄県物流高度化推進事業の採択を受けました。同センターと沖縄通運代理店であるTVL社（本社：台北、アジアを中心に物流ネットワークのある台湾の大手物流会社）の物流ネットワークを繋ぎ、那覇から香港・台湾向けに冷凍混載サービスを沖縄県のサポートを受け全6回の実証実験を行いました。香港・台北に到着した全貨物に特にダメージ等が見られず輸送品質に問題が無いことを確認できましたが、まだ物量の見込みや価格設定・採算性など安定的にサービスを継続して行うには少し課題が残っており、定番商品化に向けもう少し検討を重ねて実行する予定でありました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による国際物流は危機的状況に陥りました。特に小口貨物を定期的に輸送している荷主に対する影響が大きく、今まで順調に推移していた航空機による沖縄県産品輸出の貨物取扱量の減少を食い止めるべく、沖縄ハブ事業の運休期間中を対象として香港向けに冷凍海上混載貨物の臨時サービスを行うこととなったものです。

沖縄と香港のビジネスを繋ぐ有意義な試みであることから、沖縄日本香港協会としても周知・利用促進等に協力していきたいと思っております。

HIROSHIMA

広島日本香港協会



広島日本香港協会 事務局 木村 将隆

香港広島県人会について

広島日本香港協会では協会事業の一つとして、香港フォーラムにおける、香港訪問の機会を利用して、香港における最新のビジネス情報収集や、参加者同士の広島関連のネットワーク促進を図ることを目的に、「広島にゆかりの香港在住の皆様との交流会」を2012年から開催しています。

この交流会を開催する上で、大きな役割を担っているのが香港広島県人会です。交流会発足時から中心メンバーとしてご参画、香港側の参加者のとりまとめや、香港のデモ、新型コロナウイルスによる影響について、現地の最新情報のご提供など、当協会にとりましても広島と香港の交流の要として重要なパートナーとなっております。

◆香港広島県人会について

香港広島県人会は、当時在香港日本国総領事館首席領事を務めておられた広島県出身の方からのご提案により、広島銀行香港支店を事務局として1992年に設立されました。設立時には、香港に在住の方で広島県ご出身の方、広島県内に通学・通勤等されていた日本人の方で発足しました。現在は、駐在員として香港に在住されている方、ご結婚で香港に来られた方、現地採用や自営で香港に暮らしている方なども参加され、30代から50代の若い世代が中心となって、約80名の会員で構成されています。

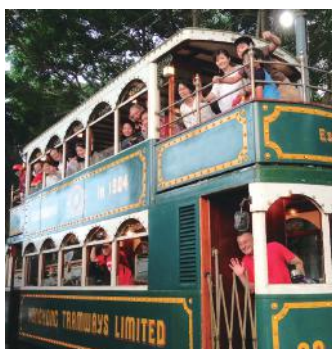
また、会の活動としては、設立時から、会員同士の親睦や連帯感を深めるため、様々なイベントが企画・実施されており、香港における広島県ゆかりの皆様との憩いの場となっております。

◆事業活動について

会員同士の親睦を深めるために、年2回、夏と冬に開催しております大きなイベントを紹介します。

夏にはボートを借り切ったの海水浴とビーチでのスイカ割りを楽しむボートトリップや、路面電車を借り切ったのパーティー等を、また冬には、クリスマス会と忘年会を兼ねて、食事をしながらの歓談の会が行われています。

特に、冬のイベントでは、広島県内企業である「オタフクソース」様にも協賛いただき、忘年会当日には、お好み焼き調理に利用するほか、参加者にお土産としてお配りするお好み焼きに必要な具材セットとソースを無償でご提供いただいております。会場で、お好み焼きが焼きあがると、参加者の方々から口々に、「久しぶりに食べた」「懐かしい！」



トラムパーティー



クリスマス会&忘年会

との声が上がると、一瞬にして皆さん笑顔になります。家族や友人として参加された県外の方にとっては、広島のお好み焼きは珍しく、用意されたホットプレートでお好み焼きに初めて挑戦される方も数多くいらっしゃいます。



お好み焼きを作っている様子

また、お好み焼きは忘年会恒例のイベントなのですが、夏のバーベキューイベントを開催した時に「今回はお好み焼きがないの？あると思ったのに……。」と残念がる声もあり、無意識のうちに、お好み焼きを期待する方もいらっしゃるぐらいです。

最近のイベントでは、他団体との交流も深められており、「山口県人会」や、2014年から活動を開始した「香港広島カープ応援会」との3者合同イベントも開催され、団体の垣根を超えた交流が行われております。特に、プロ野球シーズン中には、月1度のペースで、広島つけ麺の「ばくだん屋」香港店を主な会場として集まり、テレビ中継を前に、本場広島に負けないぐらいの応援をしております。

◆香港広島県人会から皆様へ

香港広島県人会は、会員相互の情報交換だけでなく、他団体の方との交流も積極的に行っております。

また、イベントに参加される方は様々ですが、年齢や男女は問わず、その家族や友人の方も参加され、どのイベントも和気あいあいとした雰囲気です。香港で飲食業を営む方が参加された時には、ちょうど参加された方への宣伝にもなり、後々多くの来店につながったようです。また、香港でのご縁は、日本に戻ってから続き、会員の方が、お盆休みを利用して広島に帰省された時には、香港駐在を終えて帰国された方もお呼びしての食事会が行われるなど、長く交流が続けられています。

香港広島県人会は、会員の皆様に楽しいひと時を過ごしていただく会であるとともに、香港と広島を結ぶ懸け橋となればと思っております。香港広島県人会にご興味のある方は、ぜひ、当協会にお問い合わせください。


新潟日本香港協会 事務局長 田中 湖雄
2020年春節セミナー&パーティーを開催

新潟日本香港協会では、去る2月26日（水）にホテルイタリヤ軒にて香港貿易発展局と共催で「2020年春節セミナー&パーティー」を開催しました。新型コロナウイルスの影響も考慮して予定通り実施するか、実施出来るか迷いましたが結果として実施することにし、また実施出来てよかったと思います。

当協会からは吉田会長、仙石副会長をはじめとした役員、会員の皆様、香港貿易発展局からは日本首席代表のサイラス・チュー氏、東京事務所マーケティング・マネージャーの引地氏、そして香港経済貿易代表部からは次席代表のアンドリュー・ファン氏が初の新潟ということで春節パーティーよりご参加いただきました。

当日は主催者挨拶の後、ガレオン・ジャパン株式会社代表取締役社長のルイ・チョイ・ハー氏より「香港マーケットの最新状況と成果を出す商談の秘訣」と題して香港での日本産食品の販売について講演をしていただきました。食という誰もが興味を持てるテーマを香港現地での親子料理教室や店頭でのディスプレイなど具体例を紹介しながら、また日本人との感性の違う視点からわかりやすく興味深く講演していただきました。白身魚や海老、蟹をはじめホタテ、アワビ、牡蠣など貝類などの海産物や、桃、イチゴ、柿、シャインマスカットなどの果物類が人気なのは知っていましたが、最近では日本からJAPAN EGGという名称で生の鶏卵も輸出されているそうです。近いうちに香港で和牛のすき焼きを日本の生卵で美味しく食べるのも普通によく見られるようになるかも知れません。

つづいて香港貿易発展局東京事務所マーケティング・マネージャーの引地氏より「国際ビジネスプラットフォームとしての香港の役割」と題して2020年の香港

コンベンション&エキシビジョンセンターでのイベントなどの情報と絡めて講演していただきました。

最後に昨年の10月よりこの3月までの季節運航ではありますが、新潟空港と香港空港を結ぶ国際定期便キャセイドラゴン航空について事務局より案内させていただきました。予定では今年の秋より再び就航すると聞いております。

セミナー終了後は会場を移して第二部の春節パーティーです。こちらからご参加いただいた香港経済貿易代表部次席代表のアンドリュー・ファン氏より、来賓挨拶に続き乾杯の音頭までお願いしました。例年のパーティーは立食にて行っていましたが、今回は新型コロナウイルスの影響もあり人数も少なく、また衛生上の観点からもテーブル着席の形式にさせていただきました。

新型コロナウイルスはまだまだ予断を許さない状況ではありますが、この飛龍が会員の手元に届く頃には沈静化していることを願うばかりです。

最後にご多忙の中、また自粛ムードが漂い始めた中、ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます、ありがとうございました。



ガレオン・ジャパン株式会社代表取締役ルイ様によりセミナー講演



春節パーティー



高知日本香港協会 事務局長 横山 公大

春節セミナーから更なるグローバルな世界を、高知へ！

昨年末、武漢より報告をされた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な拡がりには、日本国内は元より、香港にも大きな影響が及んでいます。特に香港においては、大規模デモの最中でのコロナショックであり、香港ビジネスを展開している事業者にとっても油断の出来ない状況ではありますが、様々な困難を乗り越えてきた経験を活かし、今こそ協会のネットワークを最大限活かして、この局面を世界の仲間とともに乗り越えていきましょう！

さて、先の高知での春節セミナーにおいては、皆さんもよくご承知と存じますが、世界最大のラーメンチェーン店味千ラーメンの、重光悦枝副社長による、「香港におけるビジネスの優位性」についてご講演をいただきました。重光副社長は味千ラーメンのキャラクター、チイちゃんのモデルでもあります。幼少の頃に両親が創業したラーメン店で生まれ育ち、幾多の困難に直面しながらも創業50周年を迎え、その半世紀の経営で得た多くの経験と学びを参加者にお話しいただきました。中でも「海外へ挑戦するための7つのKEY」が印象に残っているのでご紹介いたします。

- ① Never say "I can't" (絶対に出来ないとは言わない)
- ② Don't stay in the comfortable zone (ぬるま湯につかたままではない)
- ③ Think what they want (アンテナをはる)
- ④ Don't miss the opportunities (チャンスを逃がさない)
- ⑤ Keep the promises (自分への約束を守る)
- ⑥ Possible/Impossible is just an opinion (可能か不可能かは意見にすぎない)
- ⑦ The universe is listening (言霊は宇宙が聞いている)

この7つのKEYをご自身の経験のもと具体的に私たちに説いて頂きました。

近い将来世界1,000店舗の実現も目の前に迫っている味千ラーメン。世界で活躍される重光副社長の魅力に会場全体が引き込まれ、セミナー終了後には重光副社長直々に参加者全員へ、春節月いっぱい使えるお得なラーメンクーポン券もサプライズでプレゼントいただき、大盛況のセミナーとなりました。全国の協会の皆さんにも心からご招致をオススメいたします。

セミナーの冒頭には、サイラス・チュー香港貿易発展局日本首席代表からも、香港の現状と今後の展望等を含め、ご丁寧なご挨拶を賜りました。またこの開催のきっかけとなった、重光副社長、森本高知協会長も所属をいたします、GWA (Global Women's Association) という、世界で活躍する各界の女性リーダー組織の丸山幸子会長

も急遽ご参加をいただくこととなり、これからのグローバル社会への適応として英会話の大切さをご教授をいただきました。

現在高知においては、協会の中から実際にビジネスに繋がった会員も出てきており、海外就航航空便のない高知においては、非常に刺激的な情報もお届けできるようになっています。実際に海外展開をしている会長をはじめ5名の会員をセミナー講師とした「5カ国リレーセミナー」も企画をしており、ハワイ＝ハワイウエディング、タイ＝スポーツ関連市場、ベトナム＝食食人材派遣の可能性、台湾＝水産事業の可能性、パラグアイ＝中南米における日系社会の可能性、等をリレー形式で開催予定です。インプットをアウトプットに繋げることで、会員相互の成長も伺えるところです。

高知にも多くの経済団体が存在しますが、高知日本香港協会ほど海外を意識した団体は類をみないのではないかなと感じております。

いよいよ令和元年度も終わり、各協会が総会時期を迎えましたが、高知協会としては新年度も積極的に活動をして参ります。

- ・香港を中心にアジアに目を向けたビジネスの可能性を切り開く
- ・香港を中心にしたアジアへのビジネスツアーの企画
- ・協会を通じた高知への寄与
- ・実りのあるセミナーの企画
- ・香港フォーラムでのアワード獲得
- ・会員拡大

以上の項目に重点を置き、会員にとって、また高知県にとってメリットのある事業を展開して参ります。

コロナショックの影響でまだまだ先行きも不安な世界情勢ではありますが、できることを模索し、新しいことを考え、勇気を出してチャレンジをし、この難局を乗り越えていきましょう！



春節セミナーの様子



飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪府中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易發展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜斎内

九州日本香港協会 電話 (092) 451-8610
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル1階
地域企業連合会九州連携機構内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西
(株)Sola.com内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0842 高知市追手筋2-6-9 大手門ビル3階西
株式会社オルトル内



一度食べたなら忘れられない名店料理を求め、
今宵も香港迷が集う避風塘料理の名店、喜記銀座店

ハイゲイ



マッドクラブのチリガーリック炒め



コース料理 6,000円～



名物の「マッドクラブのチリガーリック炒め」は生きたまま空輸しており鮮度は抜群です。秘伝のチリガーリックをたっぷりつけてお召し上がりください、ニンニクと香辛料の風味にカニの甘みがマッチした後を引く美味の逸品です。ランチ2,800円～、ディナー6,000円からとコース料理も充実しています。落ちついたモダンな店内は、個室感覚で使える席もご用意しておりますので、周りを気にすることなくお過ごしいただけます。

喜記銀座店

東京都中央区銀座6-3-11 西銀座ビル2F
地下鉄銀座駅C2,C3出口から徒歩3分
予約・お問合せ
☎03-3289-0505



heigei.jp



Coupon

ディナーコースを15%割引

- ・2名様以上のご利用が対象です。
- ・ご注文の際に本冊子をご呈示ください。
- ・有効期限 2020.8.31